

Coffee break 「リンカーンがもしも PowerPoint を使ったら？」

We shall have a new birth of freedom --
and that government of the people,
by the people,
for the people,
shall not perish from the earth

"government of the people, by the people, for the people" 「人民の、人民による、人民のための政治」といえば、有名なリンカーンのゲティスバーグ演説の一節である。1863 年 11 月 19 日に、リンカーンがゲティスバーグの戦いの跡地に建つ国立戦没者墓苑の墓地献納式で語ったこの演説はわずか 10 の文で構成されている。その 10 の文は、たったの 272 語からなり、時間にするとそれはほんの 3 分間の演説である。しかし、その 3 分間の短い演説は「人の自由・平等」といった新しいアイデアを打ち立てた素晴らしいものだ。150 年近く経つ今でも知らない人のいないプレゼンテーションである。

このゲティスバーグ演説をもしもリンカーンが PowerPoint を使ってプレゼンテーションを行ったらこんな感じだろう、という PowerPoint のプレゼンテーション・マテリアルがある (<http://www.norvig.com/Gettysburg/Gettysburg.ppt>)。そのメイキングもあり、眺めてみると面白いはずだ。このゲティスバーグ演説の PowerPoint 資料を眺めながら、歴史に残るようなプレゼンテーションを考えてみるのも面白いかもしれない。



プレゼンテーションの表示画面を確認することができるが、
である。さもなくば、表示画面を確認しようと思うと、
どうしても聴衆に背中を向けて画面を確認しなければなら
なくなってしまうからである。

ポインタを選ぶ

さて、プレゼンテーションにおいてノート PC が発表者の右腕であるならば、もう片方の腕はポインタであるだろう。プレゼンテーションの資料を指し示したり、あるいはノート PC を操作したりするにはどうしたら良いだろうか。

現在では、レーザーポインターが広く出回り、またプレゼンテーション用のリモコン・マウスやコントローラも多く見かけるようになった。しかし、どうしてもそれを使わなければならない事情がなければ、そういうものは使わないのが一番である。差し棒を使う方が良い。

レーザーポインターのポインターが聴衆に対して決して見やすいものではないのに対して、差し棒は聴衆からすると、どこを指しているのか用に判断することができる。また、差し棒の適度な重さが、発表者の手の動きをスムーズにして見やすい動きにしてくれる。これがレーザーポインターであると、手の震えがそのまま増幅されて非常に見にくいし、発表者の緊張も増幅されてしまう。

必要な時は差し棒を使い、必要でないときは差し棒を畳んで机の上にでも置いておこう。必要がなければ、何も持たないのが一番である。

また、プレゼンテーション時に「間を持たせるのは結構苦労する」ものである。ついつい体をゆらしたり、手で頭をかいてみたり、とにかく何かをしていないと緊張したり変なことをしてしまったりするものだ。そんな時、ノート PC のキーボードを叩くために発表者が歩いて移動するのは結構「間を持たせるテクニック」になる。

- ・差し棒を使うのが一番
- ・差し棒を使わないときは何も持たない
- ・ノート PC は自分の指で直接キーを押そう

さいごに

さて、ここまででテクニカル・プレゼンテーション本番までの準備は整った。プレゼンテーションの素材も資料も揃い、道具もちゃんと用意した。となれば、あとは通常のプレゼンテーションと同じである。

テクニカル・プレゼンテーションは比較的容易である。何故なら、テクニカルすなわち技術的なプレゼンテーションは、一般的なプレゼンテーションよりは技術という（あくまで比較としての話ではあるが）共通の土台・判断基準を持ちやすいからである。

ここまで述べたような、

理解しやすい技術データ・ストーリー

(a) データを容易に理解し見やすい形に加工する

(b) データを繋ぐと自然にストーリーが繋がる

というようなものを作り、（少しの道具に支えられながら）聴衆の視点を意識しつつプレゼンテーションを行え

レーザーポインターは使わない

差し棒を使う



レーザーポインターは使わない



ば、とびつきり上手いプレゼンテーションではなくとも、
判りやすく効果的なテクニカル・プレゼンテーションを
行うことができると思う。

Coffee break 「Your hands make horizon of audience's view」

"Your hans make horizon of audiences's view."

この言葉は、以前プレゼンテーションの研修中に講師から言われた一節である。「発表者の両手は聴衆の視線の水平線になる」ということは、「聴衆の視線は発表者の両手の高さよりも下を見ない」ということを意味している。「聴衆の視線は発表者の両手の高さよりも下を見ない」ということは、例えば発表者が自分の両手を肩の位置まで上げてしまうとアラ不思議、聴衆は発表者の顔しか見なくなってしまうのである。つまり、聴衆の視線を自分の顔に集めることができるのである。プレゼンテーションにおいて聴衆の視線を逃がさないということはとても重要であるが、実は「**発表者の両手の高さを適切な位置に保つだけで、聴衆の視線を上手く指揮することができる**」のである。

Apple computer のスティーブ・ジョブズや hp のカーリー・フィオリーナなどがスピーチしているところを眺めてみても、確かに両手の位置を上げていつも肩の位置近くにキープしている。そういえば、イエス・キリストの姿を頭の中に思い浮かべてみると…。実は、教祖イエス・キリストもプレゼンテーションのテクニックを使いこなしていた…？

